

【】四字熟語熟語 意味

[\[FdText Home\]](#)

十人十色	じゅうにんという	人によって考え方や好みが違うこと
一長一短	いちちょういつたん	よい点も悪い点もあること
厚顔無恥	こうがんむち	厚かましくて恥を知らないこと
自画自賛	じがじさん	自分で自分をほめること
大言壮語	たいげんそうご	大きなことを言うこと
巧言令色	こうげんれいしよく	言葉を飾ったり口先だけのことを言うこと
我田引水	がでんいんすい	自分の都合のよいようにこじつけること
傍若無人	ぼうじゃくぶじん	人前をはばかり勝手気ままに振る舞うこと
小心翼翼	しょうしんよくよく	気が小さくて、びくびくしていること
自暴自棄	じぼうじき	やけくそになること
優柔不断	ゆうじゅうふだん	決断にかけぐずぐずしていること
海千山千	うみせんやません	さまざまな経験を積んで世間の裏表を知りつくし、したたかになった様子
頑固一徹	がんこいつてつ	かたくなに自分の考えや態度を貫こうとすること
公明正大	こうめいせいだい	心が公明で堂々としているようす
清廉潔白	せいれんけつぱく	行いが清らかで私欲のないこと
天衣無縫	てんいむほう	人柄などにわざとらしいところがないこと
質実剛健	しつじつごうけん	かざりけがなく、心が強く勇ましいこと
大胆不敵	だいたんふてき	敵を恐れず度胸のあること
不言実行	ふげんじっこう	黙って実行すること
思慮分別	しりょぶんべつ	物事をよく考え、判断すること
品行方正	ひんこうほうせい	行いや心が正しいこと
完全無欠	かんぜんむけつ	すべてが完全で、どこにも欠点がないこと
創意工夫	そういくふう	新しいものを考え出すこと
理路整然	りるせいぜん	物事の道理や話の道筋がきちんとしていること
沈思黙考	ちんしもっこう	だまって深く考えること
用意周到	よういしゅうとう	準備が十分であること
大器晩成	たいきばんせい	すぐれた人物はおそく完成すること
奇想天外	きそうてんがい	思いもかけぬ奇抜なやり方
適材適所	てきざいてきしょ	その人にうってつけの仕事
一騎当千	いっきとうせん	一人で千人に該当するほど力や価値があること
二律背反	にりつはいはん	二つの矛盾する命題が同時に根拠をもっていること
深謀遠慮	しんぼうえんりょ	先のことまで考えて計画を深くめぐらすこと
権謀術数	けんぼうじゅっすう	人を欺く計略
浅学非才	せんがくひさい	学問や才能があまりないこと
支離滅裂	しりめつれつ	ばらばらで脈絡がないこと
喜怒哀楽	きどあいらく	喜びや怒りなど、人間の持っているいろいろな感情のこと

感慨無量	かんがいむりょう	身にしみて感じること
安心立命	あんしんりつめい	心を安んじてくよくよしないこと
意気消沈	いきしょうちん	元気をなくして、しよげてしまっているようす
右往左往	うおうさおう	うろたえさわぐようす
一喜一憂	いっきいちゆう	状況が変わるたびごとに喜んだり心配したりすること
戦々恐々	せんせんきょうきょう	恐れおののくさま
一念発起	いちねんほっき	今までの考えを改めてがんばろうと決心すること
臥薪嘗胆	がしんしょうたん	目的を達成するために機会を待ち、苦しい努力を続けること
心機一転	しんきいつてん	あることをきっかけにして気持ちをまったく入れかえること
首尾一貫	しゅびいっかん	始めから終わりまで筋が通っていること
終始一貫	しゅうしいっかん	はじめから最後まで態度や主張などが変わらないこと
起死回生	きしかいせい	死にかかっている人や、ほろびかかっているものを生き返らせること
試行錯誤	しこうさくご	目的を達成するためにいろいろとやってみること
暗中模索	あんちゅうもさく	暗やみで手探りするような状態、手がかりのない物事をいろいろと探ってみること
五里霧中	ごりむちゅう	さっぱり見当がつかないこと
不眠不休	ふみんふきゅう	眠りも休みもしないでけんめいに働くこと
一心不乱	いっしんふらん	ひとすじに心を打ち込むこと
無我夢中	むがむちゅう	我を忘れて夢中になること
悪戦苦闘	あくせんくとう	死にものぐるいの苦しい戦い
孤軍奮闘	こぐんふんとう	助けるものもなく一人で戦うこと
獅子奮迅	ししふんじん	猛烈な勢いで奮闘すること
粉骨碎身	ふんこつさいしん	骨身を惜しまず働くこと
苦心惨憺	くしんさんたん	苦勞して工夫したり努力したりすること
粒々辛苦	りゅうりゅうしんく	こつこつと苦心すること
四苦八苦	しくはっく	非常に苦しむこと
危機一髪	ききいっぱつ	きわどい場合、ひじょうに危ないこと
絶体絶命	ぜったいぜつめい	逃れようもなく進退きわまった状態
百戦錬磨	ひゃくせんれんま	多くの経験をして技術や知能を鍛えること
切磋琢磨	せつさたくま	学問の鍛錬や人格の修養に励むこと
油断大敵	ゆだんたいてき	気を許すと大きな失敗をするということ
臨機応変	りんきおうへん	その場の変化に応じて、適当な手段をとること
波瀾万丈	はらんばんじょう	変化が起伏に富んで激しいこと
一進一退	いっしんいつたい	事がはかばかしく運ばないこと
東奔西走	とうほんせいそう	忙しく走り回るようす

一刀両断	いっとうりょうだん	すみやかに物事を決断すること
一世一代	いっせいいちだい	一生のうちでただ一度のこと
七転八起	ななころびやおき	何度失敗しても屈せずに努力すること
九死一生	きゅうしいっしょう	ほとんど助かる見込みがないと思われるほど危険な状態
急転直下	きゅうてんちよっか	情勢が急変して決着がつくこと
一朝一夕	いっしょういっせき	わずかの期間，月日
一挙両得	いっきりょうとく	一つのことをして二つの利益を得ること
一石二鳥	いっせきにちょう	一つのことをして二つの利益を得ること
一攫千金	いっかくせんきん	一度に大金を得ること
面目一新	めんもくいっしん	世間の評価ががらっと変わること
順風満帆	じゅんぷうまんぱん	物事が順調に進むこと
意気揚々	いきようよう	得意で元気いっぱいの様子
黄金時代	おうごんじだい	もっともさかえた時代
栄枯盛衰	えいこせいすい	さかんになったり、おとろえたりすること
一網打尽	いちもうだじん	悪者などをいっぺんに全部とらえてしまうこと
一触即発	いっしょくそくはつ	ちょっとしたきっかけで危険な事態が起こりそうなこと
二束三文	にそくさんもん	値段がただ同然なこと
因果応報	いんがおうほう	過去の行いに応じて必ず報いがあること
自業自得	じごうじとく	自分の悪事のためにむくいを受けること
七転八倒	しちてんぱっとう	のたうちまわって苦しむこと
弱肉強食	じゃくにくきょうしよく	強い者が弱い者に勝ってさかえること
信賞必罰	しんしょうひつばつ	賞罰を正しく厳正に行うこと
縦横無尽	じゅうおうむじん	思うままにふるまうこと
有難迷惑	ありがためいわく	相手の親切がかえって迷惑なこと
悪口雑言	あっこうぞうごん	人をさんざんののしること
異口同音	いくどうおん	だれもが口々に同じことを言うこと
以心伝心	いしんでんしん	黙っていても心が通じること
一心同体	いっしんどうたい	何人かの人が心を一にしてまとまっていること
一致団結	いっちだんけつ	心を一に合わせ，まとまって事に当たること
一蓮托生	いちれんたくしょう	行動や運命を共にすること
一期一会	いちごいちえ	生涯でたった一度出会うこと
一宿一飯	いっしょくいっぱん	一晩泊めてもらい，一度食事の世話になること
三々五々	さんさんごご	三人、五人とつれだっていること
付和雷同	ふわらいどう	いい加減な気持ちで他人の考えに従うこと
意気投合	いきとうごう	気持ちや考えなどが一致すること
満場一致	まんじょういっち	全員の意見が一致すること

責任転嫁	せきにんてんか	責任を他人におしつけること
千差万別	せんさばんべつ	いろいろさまざまで違いのあること
八方美人	はっぽうびじん	だれにでも抜け目なく対応する人のこと
岡目八目	おかめはちもく	第三者の方が当事者よりも冷静かつ的確に判断できること
他力本願	たりにほんがん	他人の力をあてにすること
四面楚歌	しめんそか	周囲すべてが敵で味方のいないこと
面目躍如	めんもくやくじょ	世間の評価にふさわしい活躍をすること
外柔内剛	がいじゅうないごう	表面は優しいが、しんは強いこと
言語道断	ごんごどうだん	いいようのないほどひどいこと
誇大妄想	こだいもうそう	物事を過大に想像して事実だと確信すること
本末転倒	ほんまつてんとう	大事なこととどうでもよいことを取り違えること
荒唐無稽	こうとうむけい	でたらめなこと
前代未聞	ぜんだいみもん	今までに見たことも聞いたこともないこと
同床異夢	どうしょういむ	同じことをする仲間であっても、目的や考え方が違うこと
一言半句	いちげんはんく	ほんのわずかな言葉
片言隻語	へんげんせきご	ほんのわずかなことば
同工異曲	どうこういきよく	外見は似ているが、内容は違うこと
美辞麗句	びじれいく	美しい言葉でうわべだけを飾りたてた文句
単刀直入	たんとうちよくにゅう	いきなり本論にはいること
一部始終	いちぶしじゅう	事の始めから終わりまで
一挙一動	いっきょいちどう	一つ一つの動作やふるまいのこと
疑心暗鬼	ぎしんあんき	心に疑いをもつと何でも心配になること
興味津々	きょうみしんしん	興味があとからあとから尽きないこと
半信半疑	はんしんはんぎ	半ば信じ半ば疑うこと
馬耳東風	ばじとうふう	いい加減に聞き流すこと
一日千秋	いちじつせんしゅう	ひじょうに待ちどおしく感じる事
一目瞭然	いちもくりょうぜん	一目で物事の様子が分かること
二者択一	にしやたくいつ	二つのうちどれか一つを選ぶこと
意味深長	いみしんちょう	言外に深い意味を含むこと
百発百中	ひゃっぱつひゃくちゅう	予想やねらいが全部的中すること
質疑応答	しつぎおうとう	質問とそれに対する答え
徹頭徹尾	てつとうてつび	始めから終わりまで
人事不省	じんじふせい	意識を失うこと
自給自足	じきゅうじそく	必要なものは自分で作ってまかなうこと
粗衣粗食	そいそしょく	粗末な衣服や食事

日常茶飯	にちじょうさはん	ありふれたこと
悠々自適	ゆうゆうじてき	俗世間から離れて心のおもむくままに生活すること
晴耕雨読	せいこううどく	晴れたら田畑を耕し，雨がふったら読書をするような自由な生活
暖衣飽食	だんいほうしょく	物質的に満ち足りた生活をする
一望千里	いちぼうせんり	遠くの方までけしきが一目で見渡せること
広大無辺	こうだいむへん	かぎりなく広く大きいこと
一木一草	いちぼくいっそう	一本の木，一本の草のこと
花鳥風月	かちょうふうげつ	心をとらえる自然の風物
小春日和	こはるびより	冬のあたたかい日のこと
津々浦々	つつうらうら	全国各地
南船北馬	なんせんほくば	各地をしょっちゅう旅すること
天変地異	てんぺんちい	天地の間に起こる異常な変動
千変万化	せんぺんばんか	物事がいろいろに変化すること
雨天順延	うてんじゅんえん	雨が晴れるまでのばすこと
一刻千金	いっこくせんきん	一時間が千金にも値するほどすばらしいひととき
唯一無二	ゆいいつむに	ただ一つで，二つとないこと
三位一体	さんみいつたい	三つのものが一つのもののようにつながり結びつくこと
温故知新	おんこちしん	古いことを研究して新しいことを見つけること
朝三暮四	ちょうさんぼし	いつわって人をごまかすこと
吳越同舟	ごえつどうしゅう	仲の悪い者同士が同じ場所に居合わせる
空前絶後	くうぜんぜつご	過去に例がなく，将来も例がないであろうと思われほどもめずらしいこと
言文一致	げんぶんいっち	話しことばのとおりを書くこと
千載一遇	せんざいいいちぐう	またとない絶好の機会
四角四面	しかくしめん	融通のきかないこと
孟母三遷	もうぼさんせん	子どもの教育のためには良い環境が必要なことのたとえ
朝令暮改	ちょうれいぼかい	命令や方針が次々に変わる
神出鬼没	しんしゅつきぼつ	不意に現れたり隠れたりすること
旧態依然	きゅうたいいぜん	状態や体制が古いままで進歩のないこと
四六時中	しろくじちゅう	一日中，いつも
森羅万象	しんらばんしょう	宇宙空間に存在するありとあらゆるもの
開口一番	かいこういちばん	話を始めるとすぐに
取捨選択	しゅしゃせんたく	必要なものを取り不要なものを捨てること
枝葉末節	しょうまつせつ	主要でない細かなこと
針小棒大	しんしょうぼうだい	ものごとを大げさに言うこと
牛飲馬食	ぎゅういんばしょく	牛や馬のようにたくさん飲んだり食べたりすること

表裏一体	ひょうりいったい	二者のつながりが密接で切り離せないこと
大同小異	だいどうしょうい	わずかの違い
有名無実	ゆうめいむじつ	名前だけで実質のないこと
玉石混淆	ぎよくせきこんこう	よいものと悪いものがいっしょになっていること
日進月歩	にっしんげつぽ	たえず進歩すること
前人未到	ぜんじんみとう	今までだれも足を踏み入れたことがないこと
百鬼夜行	ひゃっきやこう	いろいろな妖怪が夜歩き回ること
内憂外患	ないゆうがいかん	内にも外にも心配事が起きること
新陳代謝	しんちんたいしゃ	新しいものが古いものにとってかわること
時期尚早	じきしょうそう	まだ時期が熟さないこと
無味乾燥	むみかんそう	おもしろみがないこと
事実無根	じじつむこん	事実に基づいていないこと
主客転倒	しゅきゃくてんとう	物事の軽重の順序を取り違えること
大義名分	たいぎめいぶん	何かすることにあたっての根拠
金科玉条	きんかぎよくじょう	守るべき大切なきまり
故事来歴	こじらいれき	昔からの言い伝え
流言飛語	りゅうげんひご	根拠のないうわさ
抱腹絶倒	ほうふくぜつとう	腹をかかえ倒れるほど大笑いをする事
勸善懲悪	かんぜんちょうあく	よい行いを勧め、悪い行いをこらしめること
画竜点睛	がりょうてんせい	物事の大事なところ
有象無象	うぞうむぞう	大勢のつまらない者たち
竜頭蛇尾	りゅうとうだび	最初は勢いがあるが、終わりに近づくとつれてふるわなくなる事
羊頭狗肉	ようとうくにく	見かけはりっぱであるが、中身が伴わないこと
粗製濫造	そせいらんぞう	粗悪品をやたらと作り出すこと
多事多難	たじたなん	事件、災難などが多いこと
五臟六腑	ごぞうろっぷ	からだじゅう
前後不覚	ぜんごふかく	前のことも後のこともわからないほどになること
再三再四	さいさんさいし	たびたび、しばしば
起承転結	きしょうてんけつ	文章の構成や物事の順序

【】四字熟語 意味 熟語

人によって考え方や好みが違うこと	十人十色(じゅうにんといろ)
よい点も悪い点もあること	一長一短(いちちょういつたん)
厚かましくて恥を知らないこと	厚顔無恥(こうがんむち)
自分で自分をほめること	自画自賛(じがじさん)
大きなことを言うこと	大言壮語(たいげんそうご)
言葉を飾ったり口先だけのことを言うこと	巧言令色(こうげんれいしょく)
自分の都合のよいようにこじつけること	我田引水(がでんいんすい)
人前をはばかり勝手気ままに振る舞うこと	傍若無人(ぼうじゃくぶじん)
気が小さくて、びくびくしていること	小心翼翼(しょうしんよくよく)
やけくそになること	自暴自棄(じぼうじき)
決断にかけぐずぐずしていること	優柔不断(ゆうじゅうふだん)
さまざまな経験を積んで世間の裏表を知りつくし、し たたかになった様子	海千山千(うみせんやません)
かたくなに自分の考えや態度を貫こうとすること	頑固一徹(がんこいつてつ)
心が公明で堂々としているようす	公明正大(こうめいせいだい)
行いが清らかで私欲のないこと	清廉潔白(せいれんけっぱく)
人柄などにわざとらしいところがないこと	天衣無縫(てんいむほう)
かざりけがなく、心が強く勇ましいこと	質実剛健(しつじつごうけん)
敵を恐れず度胸のあること	大胆不敵(だいたんふてき)
黙って実行すること	不言実行(ふげんじっこう)
物事をよく考え、判断すること	思慮分別(しりょぶんべつ)
行いや心が正しいこと	品行方正(ひんこうほうせい)
すべてが完全で、どこにも欠点がないこと	完全無欠(かんぜんむけつ)
新しいものを考え出すこと	創意工夫(そういくふう)
物事の道理や話の道筋がきちんとしていること	理路整然(りろせいぜん)
だまって深く考えること	沈思黙考(ちんしもっこう)
準備が十分であること	用意周到(よういしゅうとう)
すぐれた人物はおそく完成すること	大器晩成(たいきばんせい)
思いもかけぬ奇抜なやり方	奇想天外(きそうてんがい)
その人にうってつけの仕事	適材適所(てきざいてきしょ)
一人で千人に該当するほど力や価値があること	一騎当千(いっきとうせん)
二つの矛盾する命題が同時に根拠をもっていること	二律背反(にりつはいはん)
先のことまで考えて計画を深くめぐらすこと	深謀遠慮(しんぼうえんりょ)
人を欺く計略	權謀術数(けんぼうじゅっすう)
学問や才能があまりないこと	浅学非才(せんがくひさい)
ばらばらで脈絡がないこと	支離滅裂(しりめつれつ)
喜びや怒りなど、人間の持っているいろいろな感情の こと	喜怒哀楽(きどあいらく)

身にしみて感じること	感慨無量(かんがいむりょう)
心を安んじてくよくよしないこと	安心立命(あんしんりつめい)
元気をなくして、しよげてしまっているようす	意気消沈(いきしょうちん)
うろたえさわぐようす	右往左往(うおうさおう)
状況が変わるたびごとに喜んだり心配したりすること	一喜一憂(いっきいちゆう)
恐れおののくさま	戦々恐々(せんせんきょうきょう)
今までの考えを改めてがんばろうと決心すること	一念発起(いちねんほつき)
目的を達成するために機会を待ち、苦しい努力を続けること	臥薪嘗胆(がしんしょうたん)
あることをきっかけにして気持ちをまったく入れかえること	心機一転(しんきいつてん)
始めから終わりまで筋が通っていること	首尾一貫(しゅびいっかん)
はじめから最後まで態度や主張などが変わらないこと	終始一貫(しゅうしいっかん)
死にかかっている人や、ほろびかかっているものを生き返らせること	起死回生(きしかいせい)
目的を達成するためにいろいろとやってみること	試行錯誤(しこうさくご)
暗やみで手探りするような状態、手がかりのない物事をいろいろと探ってみること	暗中摸索(あんちゅうもさく)
さっぱり見当がつかないこと	五里霧中(ごりむちゅう)
眠りも休みもしないでけんめいに働くこと	不眠不休(ふみんふきゅう)
ひとすじに心を打ち込むこと	一心不乱(いっしんふらん)
我を忘れて夢中になること	無我夢中(むがむちゅう)
死にもものぐるいの苦しい戦い	悪戦苦闘(あくせんくとう)
助けるものもなく一人で戦うこと	孤軍奮闘(こぐんふんとう)
猛烈な勢いで奮闘すること	獅子奮迅(ししぶんじん)
骨身を惜しまず働くこと	粉骨碎身(ふんこつさいしん)
苦勞して工夫したり努力したりすること	苦心惨憺(くしんさんたん)
こつこつと苦心すること	粒々辛苦(りゅうりゅうしんく)
非常に苦しむこと	四苦八苦(しくはっく)
きわどい場合、ひじょうに危ないこと	危機一髪(ききいっぱつ)
逃れようもなく進退きわまった状態	絶体絶命(ぜったいぜつめい)
多くの経験をして技術や知能を鍛えること	百戦錬磨(ひゃくせんれんま)
学問の鍛錬や人格の修養に励むこと	切磋琢磨(せつさたくま)
気を許すと大きな失敗をするということ	油断大敵(ゆだんたいてき)
その場の変化に応じて、適当な手段をとること	臨機応変(りんきおうへん)
変化が起伏に富んで激しいこと	波瀾万丈(はらんばんじょう)
事がはかばかしく運ばないこと	一進一退(いっしんいつたい)
忙しく走り回るようす	東奔西走(とうほんせいそう)
すみやかに物事を決断すること	一刀両断(いっとうりょうだん)

一生のうちでただ一度のこと	一世一代(いっせいちだい)
何度失敗しても屈せずに努力すること	七転八起(ななころびやおき)
ほとんど助かる見込みがないと思われるほど危険な状態	九死一生(きゅうしっしょう)
情勢が急変して決着がつくこと	急転直下(きゅうてんちよっか)
わずかの期間, 月日	一朝一夕(いっしょういっせき)
一つのことをして二つの利益を得ること	一挙両得(いっきりょうとく)
一つのことをして二つの利益を得ること	一石二鳥(いっせきにちょう)
一度に大金を得ること	一攫千金(いっかくせんきん)
世間の評価ががらっと変わること	面目一新(めんもくいっしん)
物事が順調に進むこと	順風満帆(じゅんぷうまんぱん)
得意で元気いっぱいの様子	意気揚々(いきようよう)
もっともさかえた時代	黄金時代(おうごんじだい)
さかんになったり、おとろえたりすること	栄枯盛衰(えいこせいすい)
悪者などをいっぺんに全部とらえてしまうこと	一網打尽(いちもうだじん)
ちょっとしたきっかけで危険な事態が起こりそうなこと	一触即発(いっしょくそくはつ)
値段がただ同然なこと	二束三文(にそくさんもん)
過去の行いに応じて必ず報いがあること	因果応報(いんがおうほう)
自分の悪事のためにむくいを受けること	自業自得(じごうじとく)
のたうちまわって苦しむこと	七転八倒(しちてんぱっとう)
強い者が弱い者に勝ってさかえること	弱肉強食(じゃくにくきょうしょく)
賞罰を正しく厳正に行うこと	信賞必罰(しんしょうひつぱつ)
思うままにふるまうこと	縦横無尽(じゅうおうむじん)
相手の親切がかえって迷惑なこと	有難迷惑(ありがためいわく)
人をさんざんののしること	悪口雑言(あくこうぞうごん)
だれもが口々に同じことを言うこと	異口同音(いくどうおん)
黙っていても心が通じること	以心伝心(いしんでんしん)
何人かの人を心一つにしてまとまっていること	一心同体(いっしんどうたい)
心一つに合わせ, まとまって事に当たること	一致団結(いっちだんけつ)
行動や運命を共にすること	一蓮托生(いちれんたくしょう)
生涯でたった一度出会うこと	一期一会(いちごいちえ)
一晩泊めてもらい, 一度食事の世話になること	一宿一飯(いっしゅくいっぱん)
三人、五人とつれだっていること	三々五々(さんさんごご)
いい加減な気持ちで他人の考えに従うこと	付和雷同(ふわらいどう)
気持ちや考えなどが一致すること	意気投合(いきとうごう)
全員の意見が一致すること	満場一致(まんじょういっち)

責任を他人におしつけること	責任転嫁(せきにんてんか)
いろいろさまざまで違いのあること	千差万別(せんさばんべつ)
だれにでも抜け目なく対応する人のこと	八方美人(はっぽうびじん)
第三者の方が当事者よりも冷静かつ的確に判断できること	岡目八目(おかめはちもく)
他人の力をあてにすること	他力本願(たりにきほんがん)
周囲すべてが敵で味方のいないこと	四面楚歌(しめんそか)
世間の評価にふさわしい活躍をすること	面目躍如(めんもくやくじょ)
表面は優しいが、しんは強いこと	外柔内剛(がいじゅうないごう)
いいようのないほどひどいこと	言語道断(ごんごどうだん)
物事を過大に想像して事実だと確信すること	誇大妄想(こだいもうそう)
大事なこととどうでもよいことを取り違えること	本末転倒(ほんまつてんとう)
でたらめなこと	荒唐無稽(こうとうむけい)
今までに見たことも聞いたこともないこと	前代未聞(ぜんだいみもん)
同じことをする仲間であっても、目的や考え方が違うこと	同床異夢(どうしょういむ)
ほんのわずかな言葉	一言半句(いちげんはんく)
ほんのわずかなことば	片言隻語(へんげんせきご)
外見は似ているが、内容は違うこと	同工異曲(どうこういきよく)
美しい言葉でうわべだけを飾りたてた文句	美辞麗句(びじれいく)
いきなり本論にはいること	単刀直入(たんとうちよくにゅう)
事の始めから終わりまで	一部始終(いちぶしじゅう)
一つ一つの動作やふるまいのこと	一挙一動(いっきょいちどう)
心に疑いをもつと何でも心配になること	疑心暗鬼(ぎしんあんき)
興味があとからあとから尽きないこと	興味津々(きょうみしんしん)
半ば信じ半ば疑うこと	半信半疑(はんしんはんぎ)
いい加減に聞き流すこと	馬耳東風(ばじとうふう)
ひじょうに待ちどおしく感じる事	一日千秋(いちじつせんしゅう)
一目で物事の様子が分かること	一目瞭然(いちもくりょうぜん)
二つのうちどれか一つを選ぶこと	二者択一(にしゃたくいつ)
言外に深い意味を含むこと	意味深長(いみしんちょう)
予想やねらいが全部的中すること	百発百中(ひゃっぱつひゃくちゅう)
質問とそれに対する答え	質疑応答(しつぎおうとう)
始めから終わりまで	徹頭徹尾(てつとうてつび)
意識を失うこと	人事不省(じんじふせい)
必要なものは自分で作ってまかなうこと	自給自足(じきゅうじそく)
粗末な衣服や食事	粗衣粗食(そいそしょく)
ありふれたこと	日常茶飯(にちじょうさはん)

俗世間から離れて心のおもむくままに生活すること	悠悠自適(ゆうゆうじてき)
晴れたら田畑を耕し，雨がふったら読書をするような自由な生活	晴耕雨読(せいこううどく)
物質的に満ち足りた生活をする	暖衣飽食(だんいほうしょく)
遠くの方までけしきが一目で見渡せること	一望千里(いちぼうせんり)
かぎりなく広く大きいこと	広大無辺(こうだいむへん)
一本の木，一本の草のこと	一木一草(いちぼくいつそう)
心をとらえる自然の風物	花鳥風月(かちょうふうげつ)
冬のあたたかい日のこと	小春日和(こはるびより)
全国各地	津々浦々(つつうらうら)
各地をしょっちゅう旅すること	南船北馬(なんせんほくば)
天地の間に起こる異常な変動	天変地異(てんぺんちい)
物事がいろいろに変化すること	千変万化(せんべんばんか)
雨が晴れるまでのばすこと	雨天順延(うてんじゅんえん)
一時間が千金にも値するほどすばらしいひととき	一刻千金(いっこくせんきん)
ただ一つで，二つとないこと	唯一無二(ゆいいつむに)
三つのものが一つのもののようにながちりと結びつくこと	三位一体(さんみいつたい)
古いことを研究して新しいことを見つけること	温故知新(おんこちしん)
いつわって人をごまかすこと	朝三暮四(ちょうさんぼし)
仲の悪い者同士が同じ場所に居合わせる	吳越同舟(ごえつどうしゅう)
過去に例がなく，将来も例がないであろうと思われほどめずらしいこと	空前絶後(くうぜんぜつご)
話しことばのとおりを書くこと	言文一致(げんぶんいっち)
またとない絶好の機会	千載一遇(せんざいいちぐう)
融通のきかないこと	四角四面(しかくしめん)
子どもの教育のためには良い環境が必要なことのたとえ	孟母三遷(もうぼさんせん)
命令や方針が次々に変わる	朝令暮改(ちょうれいぼかい)
不意に現れたり隠れたりすること	神出鬼没(しんしゅつきぼつ)
状態や体制が古いままで進歩のないこと	旧態依然(きゅうたいいぜん)
一日中，いつも	四六時中(しろくじちゅう)
宇宙空間に存在するありとあらゆるもの	森羅万象(しんらばんしょう)
話を始めるとすぐに	開口一番(かいこういちばん)
必要なものを取り不要なものを捨てること	取捨選択(しゅしゃせんたく)
主要でない細かなこと	枝葉末節(しようまつせつ)
ものごとを大げさに言うこと	針小棒大(しんしょうぼうだい)
牛や馬のようにたくさん飲んだり食べたりすること	牛飲馬食(ぎゅういんばしょく)
二者のつながりが密接で切り離せないこと	表裏一体(ひょうりいつたい)

わずかの違い	大同小異(だいどうしょうい)
名前だけで実質のないこと	有名無実(ゆうめいむじつ)
よいものと悪いものがいっしょになっていること	玉石混淆(ぎよくせきこんこう)
たえず進歩すること	日進月歩(にっしんげつぽ)
今までだれも足を踏み入れたことがないこと	前人未到(ぜんじんみとう)
いろいろな妖怪が夜歩き回ること	百鬼夜行(ひゃっきやこう)
内にも外にも心配事が起きること	内憂外患(ないゆうがいかん)
新しいものが古いものにとってかわること	新陳代謝(しんちんたいしゃ)
まだ時期が熟さないこと	時期尚早(じきしょうそう)
おもしろみがないこと	無味乾燥(むみかんそう)
事実に基づいていないこと	事実無根(じじつむこん)
物事の軽重の順序を取り違えること	主客転倒(しゅきゃくてんとう)
何かすることにあたっての根拠	大義名分(たいぎめいぶん)
守るべき大切なきまり	金科玉条(きんかぎよくじょう)
昔からの言い伝え	故事来歴(こじらいれき)
根拠のないうわさ	流言飛語(りゅうげんひご)
腹をかかえ倒れるほど大笑いをする	抱腹絶倒(ほうふくぜつとう)
よい行いを勧め、悪い行いをこらしめること	勸善懲悪(かんぜんちょうあく)
物事の大事なところ	画竜点睛(がりょうてんせい)
大勢のつまらない者たち	有象無象(うぞうむぞう)
最初は勢いがあるが、終わりに近づくとつれてふるわなくなる	竜頭蛇尾(りゅうとうだび)
見かけはりっぱであるが、中身が伴わないこと	羊頭狗肉(ようとうくにく)
粗悪品をやたらと作り出すこと	粗製濫造(そせいらんぞう)
事件、災難などが多いこと	多事多難(たじたなん)
からだじゅう	五臟六腑(ごぞうろつぶ)
前のことも後のこともわからないほどになること	前後不覚(ぜんごふかく)
たびたび、しばしば	再三再四(さいさんさいし)
文章の構成や物事の順序	起承転結(きしょうてんけつ)

【】四字熟語 適語記入

十人	十人十色(じゅうにんといろ)	人によって考え方や好みが違うこと
一長	一長一短(いちちょういつたん)	よい点も悪い点もあること
厚顔	厚顔無恥(こうがんむち)	厚かましくて恥を知らないこと
自画	自画自賛(じがじさん)	自分で自分をほめること
大言	大言壮語(たいげんそうご)	大きなことを言うこと
巧言	巧言令色(こうげんれいしょく)	言葉を飾ったり口先だけのことを言うこと
我田	我田引水(がでんいんすい)	自分の都合のよいようにこじつけること
傍若	傍若無人(ぼうじゃくぶじん)	人前をはばかり勝手気ままに振る舞うこと
小心	小心翼翼(しょうしんよくよく)	気が小さくて、びくびくしていること
自暴	自暴自棄(じぼうじき)	やけくそになること
優柔	優柔不断(ゆうじゅうふだん)	決断にかけぐずぐずしていること
海千	海千山千(うみせんやません)	さまざまな経験を積んで世間の裏表を知りつくし、したたかになった様子
頑固	頑固一徹(がんこいつてつ)	かたくなに自分の考えや態度を貫こうとすること
公明	公明正大(こうめいせいだい)	心が公明で堂々としているようす
清廉	清廉潔白(せいれんけつぱく)	行いが清らかで私欲のないこと
天衣	天衣無縫(てんいむほう)	人柄などにわざとらしいところがないこと
質実	質実剛健(しつじつごうけん)	かざりけがなく、心が強く勇ましいこと
大胆	大胆不敵(だいたんふてき)	敵を恐れず度胸のあること
不言	不言実行(ふげんじっこう)	黙って実行すること
思慮	思慮分別(しりょぶんべつ)	物事をよく考え、判断すること
品行	品行方正(ひんこうほうせい)	行いや心が正しいこと
完全	完全無欠(かんぜんむけつ)	すべてが完全で、どこにも欠点がないこと
創意	創意工夫(そういくふう)	新しいものを考え出すこと
理路	理路整然(りろせいぜん)	物事の道理や話の道筋がきちんとしていること
沈思	沈思黙考(ちんしもっこう)	だまって深く考えること
用意	用意周到(よういしゅうとう)	準備が十分であること
大器	大器晩成(たいきばんせい)	すぐれた人物はおそく完成すること
奇想	奇想天外(きそうてんがい)	思いもかけぬ奇抜なやり方
適材	適材適所(てきざいてきしょ)	その人にうってつけの仕事
一騎	一騎当千(いっきとうせん)	一人で千人に該当するほど力や価値があること

二律	二律背反(にりつはいはん)	二つの矛盾する命題が同時に根拠をもっていること
深謀	深謀遠慮(しんぼうえんりょ)	先のことまで考えて計画を深くめぐらすこと
権謀	権謀術数(けんぼうじゅっすう)	人を欺く計略
浅学	浅学非才(せんがくひさい)	学問や才能があまりないこと
支離	支離滅裂(しりめつれつ)	ばらばらで脈絡がないこと
喜怒	喜怒哀楽(きどあいらく)	喜びや怒りなど、人間の持っているいろいろな感情のこと
感慨	感慨無量(かんがいむりょう)	身にしみて感じること
安心	安心立命(あんしんりつめい)	心を安んじてくよくよしないこと
意気	意気消沈(いきしょうちん)	元気をなくして、しょげてしまっているようす
右往	右往左往(うおうさおう)	うろたえさわぐようす
一喜	一喜一憂(いっきいちゆう)	状況が変わるたびごとに喜んだり心配したりすること
戦々	戦々恐々(せんせんきょうきょう)	恐れおののくさま
一念	一念発起(いちねんほっき)	今までの考えを改めてがんばろうと決心すること
臥薪	臥薪嘗胆(がしんしょうたん)	目的を達成するために機会を待ち、苦しい努力を続けること
心機	心機一転(しんきいつてん)	あることをきっかけにして気持ちをまったく入れかえること
首尾	首尾一貫(しゅびいっかん)	始めから終わりまで筋が通っていること
終始	終始一貫(しゅうしいっかん)	はじめから最後まで態度や主張などが変わらないこと
起死	起死回生(きしかいせい)	死にかかっている人や、ほろびかかっているものを生き返らせること
試行	試行錯誤(しこうさくご)	目的を達成するためにいろいろとやってみること
暗中	暗中摸索(あんちゅうもさく)	暗やみで手探りするような状態、手がかりのない物事をいろいろと探ってみること
五里	五里霧中(ごりむちゅう)	さっぱり見当がつかないこと
不眠	不眠不休(ふみんふきゅう)	眠りも休みもしないでけんめいに働くこと
一心	一心不乱(いっしんふらん)	ひとすじに心を打ち込むこと
無我	無我夢中(むがむちゅう)	我を忘れて夢中になること
悪戦	悪戦苦闘(あくせんくとう)	死にものぐるいの苦しい戦い

孤軍	孤軍奮闘(こくんふんとう)	助けるものもなく一人で戦うこと
獅子	獅子奮迅(ししふんじん)	猛烈な勢いで奮闘すること
粉骨	粉骨碎身(ふんこつさいしん)	骨身を惜しまず働くこと
苦心	苦心惨憺(くしんさんたん)	苦勞して工夫したり努力したりすること
粒々	粒々辛苦(りゅうりゅうしんく)	こつこつと苦心すること
四苦	四苦八苦(しくはっく)	非常に苦しむこと
危機	危機一髪(ききいっぱつ)	きわどい場合、ひじょうに危ないこと
絶体	絶体絶命(ぜったいぜつめい)	逃れようもなく進退きわまった状態
百戦	百戦錬磨(ひゃくせんれんま)	多くの経験をして技術や知能を鍛えること
切磋	切磋琢磨(せつさたくま)	学問の鍛錬や人格の修養に励むこと
油断	油断大敵(ゆだんたいてき)	気を許すと大きな失敗をするということ
臨機	臨機応変(りんきおうへん)	その場の変化に応じて、適当な手段をとること
波瀾	波瀾万丈(はらんばんじょう)	変化が起伏に富んで激しいこと
一進	一進一退(いっしんいったい)	事がはかばかしく運ばないこと
東奔	東奔西走(とうほんせいそう)	忙しく走り回るようす
一刀	一刀両断(いっとうりょうだん)	すみやかに物事を決断すること
一世	一世一代(いっせいいちだい)	一生のうちでただ一度のこと
七転	七転八起(ななころびやおき)	何度失敗しても屈せず努力すること
九死	九死一生(きゅうしいっしょう)	ほとんど助かる見込みがないと思われるほど危険な状態
急転	急転直下(きゅうてんちよっか)	情勢が急変して決着がつくこと
一朝	一朝一夕(いっしょういっせき)	わずかの期間、月日
一挙	一挙兩得(いっきよりょうとく)	一つのことをして二つの利益を得ること
一石	一石二鳥(いっせきにちょう)	一つのことをして二つの利益を得ること
一擲	一擲千金(いっかくせんきん)	一度に大金を得ること
面目	面目一新(めんもくいっしん)	世間の評価ががらっと変わることに
順風	順風満帆(じゅんぷうまんぱん)	物事が順調に進むこと
意気	意気揚々(いきようよう)	得意で元気いっぱいの様子
黄金	黄金時代(おうごんじだい)	もっともさかえた時代
栄枯	栄枯盛衰(えいこせいすい)	さかんになったり、おとろえたりすること
一網	一網打尽(いちもうだじん)	悪者などをいっぺんに全部とらえてしまうこと

一触	一触即発(いっしょくそくはつ)	ちょっとしたきっかけで危険な事態が起こりそうなこと
二束	二束三文(にそくさんもん)	値段がただ同然なこと
因果	因果応報(いんがおうほう)	過去の行いに応じて必ず報いがあること
自業	自業自得(じごうじとく)	自分の悪事のためにむくいを受けること
七転	七転八倒(しちてんぱっとう)	のたうちまわって苦しむこと
弱肉	弱肉強食(じゃくにくきょうしよく)	強い者が弱い者に勝ってさかえること
信賞	信賞必罰(しんしょうひつぱつ)	賞罰を正しく厳正に行うこと
縦横	縦横無尽(じゅうおうむじん)	思うままにふるまうこと
有難	有難迷惑(ありがためいわく)	相手の親切がかえって迷惑なこと
悪口	悪口雑言(あくこうざうごん)	人をさんざんののしること
異口	異口同音(いこうどうおん)	だれもが口々に同じことを言うこと
以心	以心伝心(いしんでんしん)	黙っていても心が通じること
一心	一心同体(いっしんどうたい)	何人かの人が心を一つにしてまとまっていること
一致	一致団結(いっちだんけつ)	心を一つに合わせ、まとまって事に当たること
一蓮	一蓮托生(いちれんたくしょう)	行動や運命を共にすること
一期	一期一会(いちごいちえ)	生涯でたった一度出会うこと
一宿	一宿一飯(いっしょくいっばん)	一晩泊めてもらい、一度食事の世話になること
三々	三々五々(さんさんごご)	三人、五人とつれだっていること
付和	付和雷同(ふわらいどう)	いい加減な気持ちで他人の考えに従うこと
意気	意気投合(いきとうごう)	気持ちや考えなどが一致すること
満場	満場一致(まんじょういっち)	全員の意見が一致すること
責任	責任転嫁(せきにんてんか)	責任を他人におしつけること
千差	千差万別(せんさばんべつ)	いろいろさまざまで違いのあること
八方	八方美人(はっぽうびじん)	だれにでも抜け目なく対応する人のこと
岡目	岡目八目(おかめはちもく)	第三者の方が当事者よりも冷静かつ的確に判断できること
他力	他力本願(たりにきほんがん)	他人の力をあてにすること
四面	四面楚歌(しめんそか)	周囲すべてが敵で味方のいないこと
面目	面目躍如(めんもくやくじょ)	世間の評価にふさわしい活躍をすること
外柔	外柔内剛(がいじゅうないごう)	表面は優しいが、しんは強いこと
言語	言語道断(ごんごどうだん)	いいようのないほどひどいこと

誇大	誇大妄想(こだいもうそう)	物事を過大に想像して事実だと確信すること
本末	本末転倒(ほんまつてんとう)	大事なこととどうでもよいことを取り違えること
荒唐	荒唐無稽(こうとうむけい)	でたらめなこと
前代	前代未聞(ぜんだいみもん)	今までに見たことも聞いたこともないこと
同床	同床異夢(どうしょういむ)	同じことをする仲間であっても、目的や考え方が違うこと
一言	一言半句(いちげんはんく)	ほんのわずかな言葉
片言	片言隻語(へんげんせきご)	ほんのわずかなことば
同工	同工異曲(どうこういきょく)	外見は似ているが、内容は違うこと
美辞	美辞麗句(びじれいく)	美しい言葉でうわべだけを飾りたてた文句
単刀	単刀直入(たんとうちよくにゅう)	いきなり本論にはいること
一部	一部始終(いちぶしじゅう)	事の始めから終わりまで
一挙	一挙一動(いっきょいちどう)	一つ一つの動作やふるまいのこと
疑心	疑心暗鬼(ぎしんあんき)	心に疑いをもつと何でも心配になること
興味	興味津々(きょうみしんしん)	興味があとからあとから尽きないこと
半信	半信半疑(はんしんはんぎ)	半ば信じ半ば疑うこと
馬耳	馬耳東風(ばじとうふう)	いい加減に聞き流すこと
一日	一日千秋(いちじつせんしゅう)	ひじょうに待ちどおしく感じること
一目	一目瞭然(いちもくりょうぜん)	一目で物事の様子が分かること
二者	二者択一(にしゃたくいつ)	二つのうちどれか一つを選ぶこと
意味	意味深長(いみしんちょう)	言外に深い意味を含むこと
百発	百発百中(ひゃっぱつひゃくちゅう)	予想やねらいが全部的中すること
質疑	質疑応答(しつぎおうとう)	質問とそれに対する答え
徹頭	徹頭徹尾(てつとうてつび)	始めから終わりまで
人事	人事不省(じんじふせい)	意識を失うこと
自給	自給自足(じきゅうじそく)	必要なものは自分で作ってまかなうこと
粗衣	粗衣粗食(そいそしょく)	粗末な衣服や食事
日常	日常茶飯(にちじょうさはん)	ありふれたこと
悠々	悠々自適(ゆうゆうじてき)	俗世間から離れて心のおもむくままに生活すること
晴耕	晴耕雨読(せいこううどく)	晴れたら田畑を耕し、雨がふったら読書をするような自由な生活
暖衣	暖衣飽食(だんいほうしょく)	物質的に満ち足りた生活をする事

一望	一望千里(いちぼうせんり)	遠くの方までけしきが一目で見渡せること
広大	広大無辺(こうだいむへん)	かぎりなく広く大きいこと
一木	一木一草(いちぼくいつそう)	一本の木, 一本の草のこと
花鳥	花鳥風月(かちょうふうげつ)	心をとらえる自然の風物
小春	小春日和(こはるびより)	冬のあたたかい日のこと
津々	津々浦々(つつうらうら)	全国各地
南船	南船北馬(なんせんぼくば)	各地をしょっちゅう旅すること
天変	天変地異(てんぺんちい)	天地の間に起こる異常な変動
千変	千変万化(せんぺんばんか)	物事がいろいろに変化すること
雨天	雨天順延(うてんじゅんえん)	雨が晴れるまでのばすこと
一刻	一刻千金(いっこくせんきん)	一時間が千金にも値するほどすばらしいひととき
唯一	唯一無二(ゆいいつむに)	ただ一つで, 二つとないこと
三位	三位一体(さんみいつたい)	三つのものが一つのもののようにがっちり結びつくこと
温故	温故知新(おんこちしん)	古いことを研究して新しいことを見つけること
朝三	朝三暮四(ちょうさんぼし)	いつわって人をごまかすこと
吳越	吳越同舟(ごえつどうしゅう)	仲の悪い者同士が同じ場所に居合わせること
空前	空前絶後(くうぜんぜつご)	過去に例がなく, 将来も例がないであろうと思われほどめずらしいこと
言文	言文一致(げんぶんいち)	話しことばのとおりに書くこと
千載	千載一遇(せんざいいちぐう)	またとない絶好の機会
四角	四角四面(しかくしめん)	融通のきかないこと
孟母	孟母三遷(もうぼさんせん)	子どもの教育のためには良い環境が必要なことのたとえ
朝令	朝令暮改(ちょうれいぼかい)	命令や方針が次々に変わることに
神出	神出鬼没(しんしゅつぎぼつ)	不意に現れたり隠れたりすること
旧態	旧態依然(きゅうたいいぜん)	状態や体制が古いままで進歩のないこと
四六	四六時中(しろくじちゅう)	一日中, いつも
森羅	森羅万象(しんらばんしょう)	宇宙空間に存在するありとあらゆるもの
開口	開口一番(かいこういちばん)	話を始めるとすぐに
取捨	取捨選択(しゅしゃせんたく)	必要なものを取り不要なものを捨てること
枝葉	枝葉末節(しようまつせつ)	主要でない細かなこと
針小	針小棒大(しんしょうぼうだい)	ものごとを大げさに言うこと
牛飲	牛飲馬食(ぎゅういんばしょく)	牛や馬のようにたくさん飲んだり食べたりすること

表裏	表裏一体(ひょうりいつたい)	二者のつながりが密接で切り離せないこと
大同	大同小異(だいどうしょうい)	わずかの違い
有名	有名無実(ゆうめいむじつ)	名前だけで実質のないこと
玉石	玉石混淆(ぎょくせきこんこう)	よいものと悪いものがいっしょになっていること
日進	日進月歩(にっしんげつぽ)	たえず進歩すること
前人	前人未到(ぜんじんみとう)	今までだれも足を踏み入れたことがないこと
百鬼	百鬼夜行(ひゃっきやこう)	いろいろな妖怪が夜歩き回ること
内憂	内憂外患(ないゆうがいかん)	内にも外にも心配事が起きること
新陳	新陳代謝(しんちんたいしゃ)	新しいものが古いものにとってかわること
時期	時期尚早(じきしょうそう)	まだ時期が熟さないこと
無味	無味乾燥(むみかんそう)	おもしろみがないこと
事実	事実無根(じじつむこん)	事実に基づいていないこと
主客	主客転倒(しゅきゃくてんとく)	物事の軽重の順序を取り違えること
大義	大義名分(たいぎめいぶん)	何かすることにあたっての根拠
金科	金科玉条(きんかぎょくじょう)	守るべき大切なきまり
故事	故事来歴(こじらいれき)	昔からの言い伝え
流言	流言飛語(りゅうげんひご)	根拠のないうわさ
抱腹	抱腹絶倒(ほうふくぜつとう)	腹をかかえ倒れるほど大笑いをする事
勸善	勸善懲悪(かんぜんちょうあく)	よい行いを勧め、悪い行いをこらしめること
画竜	画竜点睛(がりょうてんせい)	物事の大事なところ
有象	有象無象(うぞうむぞう)	大勢のつまらない者たち
竜頭	竜頭蛇尾(りゅうとうだび)	最初は勢いがあるが、終わりに近づくにつれてふるわなくなる事
羊頭	羊頭狗肉(ようとうくにく)	見かけはりっぱであるが、中身が伴わないこと
粗製	粗製濫造(そせいらんぞう)	粗悪品をやたらと作り出すこと
多事	多事多難(たじたなん)	事件、災難などが多いこと
五臓	五臓六腑(ごぞうろっぽ)	からだじゅう
前後	前後不覚(ぜんごふかく)	前のことも後のこともわからないほどになること
再三	再三再四(さいさんさいし)	たびたび、しばしば
起承	起承転結(きしょうてんけつ)	文章の構成や物事の順序